

市政に関する

一般質問の概要

9月18日、19日に議員20名が市の考えをいただきました。主な質問、答弁の要旨を紹介します。



都市間交流の進展は
志政会 市川 敏彦

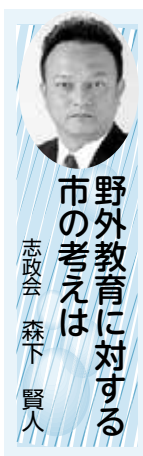
問 市では平成3年に宮城県白石市と友好都市として交流を始め、平成6年に姉妹都市の締結をしています。登別市とは消防自動車を寄贈したことをきっかけに平成22年4月に海老名市、白石市、登別市の三市による災害援助協定を締結し、交流が始まりました。翌平成23年4月にトライアングル交流宣言を行い、さまざまな分野で市民を交え積極的な交流が行われています。交流を深めることは今後も必要だと思いますが、今までの取り組みの評価と今後について伺います。また、茨城県桜川市、那珂市と災害協定を締結し、さらに今後西日本の地区との協定を検討中とのことですが、災害協定を締結した市と今後姉妹都市を締結していくのか伺います。

答 (市長) ・トライアングル交流宣言は、三市が姉妹都市宣言よりも固い絆で結ばれている認識でいます。交流事業も年々活発になり、更なる交流を望む声もあります。平成26年は、白石市との姉妹都市締結20周年を迎える年であり、記念して何ができるかを検討していきます。災害協定を締結し

ている都市との姉妹都市締結については、交流が深まり機運が高まった際検討します。
その他
・消防協力員制度について
・広域行政について



都市間交流に一役買っているキャラクターたち



野外教育に対する市の考えは
志政会 森下 賢人

問 義務教育の期間における野外教育の重要性から「富士ふれあいの森」の果たす役割と教育効果について訴えてきました。平成26年9月に土地の賃貸借契約の満了をもって使用を打ち切ることですが、そ

の意義と果たしてきた役目を考えた時にこの施設の永続的使用への希望は尽きません。諸事情で使用に耐えない理由があるのであれば、代替施設の手配などの措置を検討しなければいけません。野外教育に対する教育委員会の考え方と市の協力体制について伺います。また、「富士ふれあいの森」の代替施設についての見解を伺います。

答 (市長) ・市として教育委員会と互いに協力し、野外教育活動の更なる充実を図っていきます。代替施設を使用することになった場合、保護者負担の軽減をするともに代替施設で活動がスムーズに行われるよう、予算などの面でも手当てしていきます。

答 (教育担当理事) ・野外教育活動の必要性については、大変有意義で「ひびきあう教育」の実現のためにも重要であります。来年度の野外教育活動に支障をきたさないことを基本に教育活動の場を学校と共に確保していきます。

その他の質問

・南部地域の幹線道路整備計画について



有意義な野外教育活動ができる代替施設を



障がい者施設の整備計画は
志政会 藤澤 菊枝

問 障がいと言っても、障がいの内容やその重さの違いによってどんな障がい福祉サービスがあると生活が便利となるかは、千差万別ですが、障がい者施設に関わるサービスの充実には、多くの障がい者やその家族が望んでいることだと思います。市の第四次総合計画では、「健康で自立するフィールドの基本目標の中に誰もがいきいきと暮らせるまちづくり」とあり、障がい福祉の拠点であるわかば会館やデイサービスセンターの建て替えなどが掲載されています。今まで障がい者自立支援のため施設整備をどのように進めてきたのか、また今後の施設整備計画について伺います。

答 (市長) ・市では障がい者が住みながら地域で安心して自立した生活を送るためさまざまな支援を行っています。平成20年度には「障がい福祉施設の再整備計画」を策定し、市内デイサービスセンターの適正配置を進め、順次施設整備を行っております。今後、障がい福祉サービス利用者の増加や多様なニーズに対応するため、施設の機能拡充などを検討する必要があります。平成26年度に「わかば会館」、平成28年度には「あきば」の整備を予定しています。

その他の質問

・農業後継者の婚活について



再整備されるわかば会館